

南 寛行, 吾妻康次, 小川敏幸
過去五年間の原発性肺癌症例で, 手術前後にCEAを測った約70例を検討した. CEAは腺癌で高値を示すことが多い. 術前CEA値が高値で, 術後に低下した症例では, 再発時に再度, 高値を示し, 予後のモニターとなり得る. 術前CEA値が正常域のものは, 術後の再発時にも正常域のことが多く, 再発のモニターとなり得ない. 術前CEA値が高く, 術後も高いものは, 原発巣とは別に, 転移巣の存在が強く疑われ, 注意が必要である.

32. CSF産生肺癌の1例

鹿児島大第2内科 牧野虎彦
宇都宮与, 日高和吉, 加藤吉保
花田修一, 橋本修治
同 腫瘍研 菊池 博
松元 実

69才, 男性. 主訴は体重減少, 食欲不振. 胸部X線検査にて右上肺野に腫瘤状影を認め, 細胞診にて未分化肺癌と診断, stage IV. WBC 94000/cmm, Neutro. 56%, Eosin. 35%. 骨髓細胞のフィラデルフィア染色体陰性. 皮下腫瘤より採取した腫瘍細胞の培養上清中にマウス骨髓細胞とヒト骨髓非貪食単核細胞の両者に対するColony Stimulating Factor(CSF)活性を認めた. しかも, ヒト骨髓非貪食単核細胞を標的にして, Eosino colonyの形成をも証明した.

33. α -フェトプロテイン高値を示した肺腺癌切除例

長崎大第1外科 辻 博治
仲野祐輔, 謝 家明, 長谷川宏
吉田隆一郎, 田川 泰
川原克信, 綾部公認, 富田正雄
症例は60才男性で咳嗽を主訴として来院. 胸部レ線, 右中肺野に巨大な腫瘤状陰影が認め

られた. 肺癌の疑いにて開胸術が行なわれ, 右下葉切除が施行された. 病理組織学的には低分化腺癌であった. 本例は術前血清 α -フェトプロテイン値が222.4ng/mlと高値を示していたが, 術後は2.1ng/mlと正常化した. このことから α -フェトプロテイン産生肺癌と考えられた.

本症例を供覧し, 文献的考察を加え報告する.

34. Flow cytometryによる肺癌の細胞内DNA-RNA量解析—第2報—

長崎大第1外科 田川 泰
山岡憲夫, 宮下光世, 長谷川宏
吉田隆一郎, 謝 家明
君野孝二, 草野裕幸, 川原克信
綾部公認, 富田正雄

Flow cytometryを用いて, 原発性肺癌切除標本のAcridine orange法によるDNA-RNA量解析について報告する. 対象は51例で, I期に比しIII, IV期はDNA量よりもRNA量の増大が著明であり, RNA量の高値例はより進行した状態を示しているものと思われた. また1年以内の早期再発例は, 各病期ともRNA量の高値例にみられ, 再発(-)に比し有意にRNA量の増大を認め, RNA量の高い症例は, 術後に十分なfollow upが必要と思われた.

35. 抗癌剤の白血球減少に対するOK-432の抑制効果

九州大呼吸器科 桑野和善
麻生博史, 矢川哲郎, 重松信昭
抗癌剤の2回目以降の投与時にOK-432を併用し, 末梢血白血球数のNadirを観察した. その結果, OK-432を併用しない場合は2回目以降のNadirは1回目に比較して有意に低下するが, 併用した場合は1回目と2回目以降のNadirに有意差を認

めなかった. 従って, OK-432は, 抗癌剤を繰り返し投与する際の白血球減少を抑制することによって, 白血球の減少に伴う感染の危険率を低下させることが期待される.

36. 肺大細胞癌切除例に関する臨床的および組織学的検討 大分県立病院胸部血管外科

小川敏幸, 吾妻康次
山下三千年, 南 寛行
内山貴堯

昭和48年1月から昭和61年5月までに, 当科において肺切除を施行した原発性肺癌は271例で, このうち大細胞癌と診断されたのは, 23例(8.5%)であった. 臨床的に発見動機, 胸部X線, 確定診断, Stage別生存率に関し検討した. また, 1977年の日本肺癌学会組織分類に基づいて, 未分化な腺癌及び扁平上皮癌, 大細胞癌に分類し, 更に巨細胞癌も特別に分類し予後の検討を行なった. また組織学的に発育様式, 脈管侵襲と予後との関係を比較した.

37. 腺様嚢胞癌の臨床病理学的検討

九州大第2外科 石田照佳
西野豊彦, 久田友治, 宮崎一博
永島 明, 安元公正, 杉町圭蔵
九州がんセンター呼吸器部

原 信之, 大田満夫

10年間に九大第2外科, 九州がんセンターにて外科的切除が行われた5例の気管・気管支原発の腺様嚢胞癌について検討した. 発生部位は気管下部より区域気管支までで, 組織学的に篩状構造を示したが, 一部に管状・充実性構造を示した. リンパ節転移は認められず, 全例生存中である. また, 酵素抗体法にてlactoferrin, secretory component, desminが陽性であ